



よこはま

2024年 9月30日

第 244 号

日本労働組合総連合会神奈川県連合会
横 浜 地 域 連 合

連絡事務所 〒231-0031 横浜市中区万代町 2-4-7
横浜市民文化会館 402号
TEL. 045-641-6262 FAX. 045-641-6252

発行責任者 秋山 純一
編集責任者 高橋 直樹・加賀谷 護

「安心安全安定の市政」「住みやすい横浜」をめざして 「2025年度に向けた政策・制度要求と提言」を横浜市へ提出

8月29日(木)、横浜地域連合は秋山議長をはじめ、五役9名、地区連合代表5名、政策委員5名の参加により、連合神奈川と共に「2025年度に向けた政策・制度要求と提言」を横浜市へ提出した。



挨拶をする秋山議長



連合神奈川林会長に続き、秋山議長は「連合は2024春季生活闘争において『みんな賃上げ、ステージを変えよう』をスローガンに、昨年からの賃上げの流れを持続させるべく取り組み、確実にその成果を勝ち取ってきた。しかし物価上昇は賃金の上昇を上回り、実質賃金は下落を続け、賃金上昇を実感できない状況が続いている。このようなときこそ行政の役割として、社会

ながら着実に施策を進めてきた。特に、子育てしたい街をつくるために医療費、出産費用の独自助成など経済的な支援に取り組んできた。今後は子育てしている

的なセーフティネット機能の強化が求められている。今回の政策・制度要求については各構成組織、産別より寄せられたものを51項目にまとめた。この取りまとめにあたり、7月の業務説明会など、経済局をはじめ関係各所に大変丁寧にご対応いただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げたい。今後各地区連合からそれぞれの行政区に対しても同様の要望が提出されると思うが、そちらに対しても誠意あるご対応をお願いしたい。」と挨拶した。

次に山中市長が「横浜で働かされている方々の強い思いの結集として、政策制度要求をしっかりと受け止めて来年度の予算編成に望みたい。これまでも皆様方からの提言や市民の声に寄り添いながら着実に施策を進めてきた。特に、子育てしたい街をつくるために医療費、出産費用の独自助成など経済的な支援に取り組んできた。今後は子育てしている

方々が時間的なゆとりを持てるような取り組みをさまざま考えたい。一方で高齢者が安心して医療を受けられる環境も必要であるし、医療にかかる前の検診の充実も目指したい。さらに最近頻発している地震、台風などの自然災害に対する防災・減災にも大幅に力をいれていきたい。市民の皆様、働く皆様の安心・安全な生活を守り抜くことが行政の使命なので、災害に対してあらゆる対策を講じることが最優先である。強靱な街づくりをすすめる、横浜で暮らしたい、働きたい方が一人でも増えるように全力を尽くす。横浜をさらに暮らしやすく働きやすい街にしていくために、今後も連合神奈川、横浜地域連合の皆様と普段からやり取りをさせていただき、『政策・制度要求と提言』のような提案を真摯に受け止め、市政に反映させていきたい。」と挨拶し、要望書を手交した。



挨拶をする山中市長

横浜市会議員団へ要請行動を行う!

「2025年度に向けた政策・制度要求と提言」の横浜市への提出に先立ち、立憲民主党・民主フォーラムの両市会議員団へ要請行動を行った。



麓団長へ要請書を手渡す秋山議長

まず、8月7日14時から立憲民主党市会議員団へ要請行動を行った。横浜地域連合からは秋山議長をはじめ五役、地区連合代表者、政策委員の計22名が参加し、立憲市会議員団からは麓団長をはじめ、12名の議員が参加した。進行は山浦政調会長が行い、麓団長、秋山議長の挨拶の後、要請書が手交された。「2025年度に向けた政策・制度要求と提言」の概要について加賀谷事務局長が概要を説明し、意見交換が行われた。その中では「指定管理者制度の導入について」「子育て支援に関する現状」「市営駐輪場の原動機付自転車のスペースについて」「市営バスの人員確保について」「子ども食堂の支援」など、多方面から政策要求に対する意見が出された。

政策実現に向け、あらためて横浜地域連合と立憲民主党市会議員団・民主フォーラム市会議員団との連携を強化することを確認し、要請行動を終えた。

次に8月9日14時からは民主フォーラム市会議員団への要請行動を行った。横浜地域連合からは五役9名、民主フォーラム市会議員団からは小粥団長をはじめ、4名の議員が参加した。両代表の挨拶、要請書手交、そして概要説明に続いて意見交換が行われた。「公契約条例の制定について」「指定管理者制度について」「FCバスの活用」「水素ステーションの新設・拡充」「福祉避難所の指定と個別避難計画」「関内地区の再整備」など、多くの貴重な意見交換をすることができた。



小粥団長へ要請書を手渡す秋山議長

に関わり、水素を燃料とする自動車について、②「教育・人権・平和政策」に関わり、教職員の働き方改革と人材確保をすすめるためのデジタル化についての2点が確認された。それを受け、山中市長からは「①について、まずFC(燃料電池)バスの活用に関して、一時期運用を減らしていたが、現在は『GREENEXPO』のデザインとして、従前どおりの便数で運行している。市では一般会計から交通局へFCバスとディーゼルバスにかかる費用の差額分に対する繰出しを行っているほか、民間事業者のFCバス導入や水素ステーションの整備、また、市民の皆様の燃料電池自動車導入に対する補助、実施もしている。これらを重層的に実施することによって、今後脱炭素化を目指す。②の学校現場におけるデジタル活用に関して、現在準公金の集金業務はそれぞれの学校がそれぞれの実情により金融機関や利用サービスを選択している。事務作業のキャッシュレス化を含むデジタル活用による効率化については、重要な課題と考えるので、各校の取扱い状況を把握しつつ、課題を整理していく。」とのコメントが述べられ、要請行動が終了した。回答は12月中旬を予定している。



ご参加いただいた皆さん

横浜地域連合は8月9日(金)、JR桜木町駅前広場において「2024ピースウィーク行動」を実施した。秋山議長をはじめ五役、横浜市から佐藤副市長、立憲民主党と国民民主党の各級議員が参加した。

心となる駅頭などで地区連合役員、および役員単組からの参加者、活動に賛同する各級議員の参加により



挨拶をする秋山議長

当日は夕方とはいえず、まだ暑さが厳しい条件下だったが、秋

山議長からの主催者代表挨拶、佐藤副市長からの挨拶

核兵器ゼロの世界をめざして」をテーマに、各地域で市民に訴えかけている。また、横浜市内の6地区連合でもそれぞれの地区の中



挨拶をする佐藤副市長

山議長からの主催者代表挨拶、佐藤副市長からの挨拶

の中で平和の大切さを訴え

るとともに、「1日も早く

戦争や核兵器のない世界をつくろう」と呼びかけた。

その後のマイクリレーでは立憲民主党・国民民主党

の各議員から核兵器の廃絶

と世界の恒久平和を実現す

るための訴えが行われ、同

時に五役や議員を中心に

「連合神奈川ピースウィー

ク」のチラシ入りティッ

第10回多聞善塾(横浜版)を開催!

横浜地域連合は7月4日(木)、第10回多聞善塾(横浜版)をワークピア横浜で開催した。

- | | | |
|-----|--------------------|----------------|
| 講 師 | 1区 篠原 豪 衆議院議員 | 6区 青柳陽一郎 衆議院議員 |
| | 7区 中谷 一馬 衆議院議員 | 19区 深作ヘスス 総支部長 |
| 参加者 | 横浜地域連合10名、各地区連合12名 | |



昨年7月に横浜地域連合が推薦した衆議院議員候補の方々を講師として招き、第10回多聞善塾を開催した。今回は早ければ秋にも解散総選挙が行われること

コラム「るーぷ」

9月2日から5日にかけて、訪問団の一員として韓国へ同行させていただきました。神奈川県が韓国京畿道との友好提携締結(1990年4月)を機に、「行政レベルだけでなく労働組合レベルでも定期交流を進めよう」との思いから、連合神奈川と韓国労働組合連帯会との定期交流がスタートし、今年で31年目になるそうです。

滞在中は韓国労働組合連帯会本部議長をはじめ、私たちに同行していただいた事務局長(首席副議長)他、役員・職員の方々と、通訳の方々のおかげで、大変有意義で楽しい交流事業を体験させていただきました。この場をお借りし、あらためて感謝を申し上げます。

4日間の訪問行事の中で労働組合本部の他、京畿道議会では道議員の方々と、半導体メーカーのSKハイニックス工場を視察した際には労働執行部の方々と、それぞれ興味深い意見交換をすることができました。その中で皆さんが異口同音に言われた韓国が抱えている課題が、今の日本の課題と酷似していることに驚きました。

◆韓国の女性1人あたりの出生数は、人口維持に必要な2.1を大きく下回っていると同時に高齢化も進んでおり、労働力不足や社会保障制度への負担が増加している。政府も出生率を引き上げるための政策を実施しているが、その効果は限定的で、さらなる改善が求められている。

◆少子高齢化の進行により年金受給者が増える一方で、保険料を支払う世代が減少しているため、年金財政の持続可能性も問題視されている。現行の制度では積立金が不足しており、将来的に年金支給額の削減や保険料の引き上げが避けられないとの懸念がある。

日本と韓国は異なる文化的背景や社会制度を持ちながらも、共通する課題に直面しています。この人口減少、高齢化という大変深刻な課題に対処するため、「反日」「嫌韓」などと争いをしている場合ではなく、さまざまなレベルで効果的な戦略の共有、協力を進めていかないと近い将来、国そのものの存続が危うくなってしまうのでは、と感じました。

事務局長 加賀谷 護



1区 篠原議員



6区 青柳議員

が予想されるため、あらためてじっくりと各候補から政策等について講演をいただいた。

各候補の講演では現在の国会の状況が語られ、裏金問題をはじめとする与党がいままで作ってきたシステムにいかに大きな欠陥が隠



19区 深作総支部長



7区 中谷議員

されているかが確認できた。政治を変えなければ私たちの生活も改善されない。「働くことを軸とする安心社会」の実現には、働く者の声を反映してくれる議員を一人でも多く国会に送ることが必要だとあらためて実感する会となった。

column "Loop"



横浜地域連合は横浜ビー・コルセアーズを応援しています

2024ピースウィーク行動

地球上からすべての核兵器をなくそう